帝室典則

全

和装本
76
6292

7 6
6292

4-4
44
66

7 6
6292

本書ハ大正五年中圖書寮本ニ據リ謄寫セシメタルモノナリ

宮内事務官　五味均平

五味均平蔵

宮内省圖書寮

十九年二月廿二日修正ノ分
付札十九年四月廿二日井上圖書頭ノ意見ニヨリ修正ノ分

帝室典則

皇位継承ノ事

皇位ハ嫡長ノ順序ニヨリ皇子孫ニ傳フ

第一　皇位ハ皇子ニ傳フ

皇位ハ皇太子ニ傳フベシ

第二　皇位ノ継承ハ皇子若シ世ニ在ラサルトキハ皇次子以下及其子孫ニ傳フベシ

皇太子在ラサルトキハ皇太孫ニ傳フベシ皇太子及其子孫俱ニ在ラサルトキハ皇孫ニ傳フベシ

宮内省圖書

第三　皇位ヲ継承スヘキ皇子孫ナキトキハ皇兄弟及ヒ其子孫ニ傳フヘシ

第四　皇兄弟及ヒ其子孫ナキトキハ皇伯叔父及其子孫ナキトキハ皇太伯叔父以上及其子孫ニ傳フヘシ

第五　遺腹ノ皇子ハ皇位ヲ継承スルコト天皇在世中ノ皇子ニ異ナルコトナシ

(四六)

第六　凡皇位ノ継承ハ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス嫡嗣ノハ皇嫡子孫在ラサルトキニ限ルヘシ出中ノ順位ハ長幼ノ序ニ従フ庶出モ亦之ニ同シ

凡ソ皇子孫ノ皇位ヲ継承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ位ヲ皇兄弟皇伯叔父以上皇親内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス

第七　儲君ヲ定ムルハ前條項ニヨルヘシ

第八　庶出ノ皇子皇女ハ降誕ノ後直チニ皇后ノ養子トナス

第九　天皇在世中ハ譲位セス登遐ノ時儲君直ニ

第六条ニ第三項ヲ加ヘ嫡出庶出皆長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスト揭ク(還)ヘキカ

圖書頭意見
皇后ノ御養子ヲ止メ皇庶子ニ限リ親王宣下ノ旨詔ヲ用ヒシ宣下ノ日ヲ以テ中外ニ公布アリテハ如何

圖書頭意見
譲位ノ事ハ先度呈出シタル意見書ニ述フレハ此ニ贅ヘセス

天皇ト称スヘシ（位ノ踐ミ）

丁年及（年齢）結婚ノ事

第十九　天皇ノ丁年ハ満十八歳（年）トス

第十一　皇后ハ皇族及ヒ古來由緒アル公侯爵ノ中（家）ヨリ迎フルモノトス（之ヲ擇ブヘシ）

摂政ノ事

第十一　天皇未丁年又ハ（違豫ノ事アリテ）政務ニ堪ヘサル間ハ摂政ヲ置クヘシ

第十二　摂政ハ丁年以上皇統最近ノ皇族ヲ以テ之ニ充ツヘシ

皇族ノ事

第十三　皇胤ニシテ臣籍ニ列セサルモノヲ総テ皇族

ト称ス

但親王諸王ノ妃ハ内王ト称シ皇族ノ待遇ヲ享クルモノトス

第十五 四 皇子ハ親王皇女ハ内親王ト稱ス

第十六 五 親王ノ継嗣ハ諸王及王女トス諸王ト称シ世襲スルヘシ

第十七 六 皇族ノ継嗣ハ実子孫実弟ニ限ルヘシ

第十八 七 親王諸王ノ二男以下丁年以上ニ至レハ特旨ヲ以テ華族ニ列スルコトアルヘシ

第十九 内親王ノ他嫁ハ皇族及古來由緒アル公侯爵ノ家ニ限ルヘシ

第廿 親王ノ妃ハ皇族及古來由緒アル華族ヨリ娶ルヘシ

第廿一 十八 皇族ノ嫁娶ハ皇族及華族ニ限ルヘシ

実弟字ハナケトモ宜シキヤ 田辺

第廿二 十九 皇族ノ嫁娶ハ天皇ノ親裁ニヨルヘシ

附録

第一 有栖川宮小松宮伏見宮ハ現今宣下親王ノ継嗣ヨリ諸王トナシ其子孫ニ世襲セシムヘシ

第二 山階宮久邇宮北白川宮及載仁親王ハ

現今宣下親王ノ継嗣ヨリ諸王トナシ其諸王ノ継嗣ヨリ華族ニ列シ侯爵ヲ授クヘシ

第三 梨本宮華頂宮ハ現今諸王ノ継嗣ヨリ華族ニ列シ侯爵ヲ授クヘシ

第四 親王諸王ノ席次ハ皇統ノ近キ者ヲ以テ上席トシ自餘順次之ニ准シ親王諸王ノ品位宣下ヲ廃ス

但現今皇族ノ席次ハ舊慣ニヨルヘシ

十九年四月廿二日井上圖書頭ノ意見ニヨリ修正ノ分

帝室典則

皇位継承ノ事

第一　皇位ハ皇太子ニ傳フヘシ

第二　皇太子在ラサルトキハ皇太孫ニ傳フヘシ皇太子及其子孫俱ニ在ラサルトキハ皇次子以下及其子孫ニ傳フヘシ

第三　皇位ヲ継承スヘキ皇子孫ナキトキハ皇兄弟及ヒ其子孫ニ傳フヘシ

第四　皇兄弟及ヒ其ノ子孫ナキトキハ皇伯叔父及其子孫ニ傳ヘ皇伯叔父及其子孫ナキトキハ皇太伯叔父以上及其子孫ニ傳フヘシ

第五　遺腹ノ皇子ハ皇位ヲ継兼スルコト天皇

第六條ニ第三項ヲ加ヘ嫡出庶出皆長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスト掲クヘキカ

田邊

圖書頭意見

皇后ノ御養子ヲ止ノ皇庶子ニ限リ親王宣下ノ旧法ヲ用ヒラレ宣下ノ日ヲ以テ中外ニ公布アリテハ如何

在世中ノ皇子ニ異ナルコトナシ

第六　凡ソ皇子孫ノ皇位ヲ継兼スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ位ヲ嗣クハ皇嫡子孫在ラサルトキニ限ルヘシ

皇兄弟皇伯叔父以上ハ同等皇親内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス

第七　庶出ノ皇子皇女ハ降誕ノ後直チニ皇后ノ養子トナス

皇后御養子ノ儀ハ典則ノ本條ニ記載セサル様アリタシ

第八　天皇在世中ハ讓位セス登遐ノ時儲君直ニ天皇ノ位ヲ踐ムヘシ

丁年及立后ノ事

第九　天皇ノ丁年ハ滿十八年トス

第十　皇后ハ皇族及ヒ公侯爵ノ家ヨリ之ヲ擇フヘシ

摂政ノ事

第十一　天皇未丁年又ハ違豫ノ事アリテ政務ニ堪ヘサル間ハ摂政ヲ置クヘシ

第十二　摂政ハ皇統最近丁年以上ノ皇族ヲ以テ之ニ充ツヘシ

皇族ノ事

圖書頭意見
内王ノ名称如何アラン
親王ノ配偶者ハ内親王ト云ハザレハ皇女内親王ヨリ一等卑キニ似テ例ニ合ハズ寧ロ内王ノ称ヲ削リ但書ヲ本條第二項トナシ親王諸王ニ等シキ皇族ノ禮遇ヲ享クヘントナレハ如何

第十三　皇胤ニシテ臣籍ニ列セサルモノヲ總テ皇族ト稱ス

但親王諸王ノ妃ハ内王ト稱シ皇族ノ禮遇ヲ享クヘシ

第十四　皇子ハ親王皇女ハ内親王ト稱ス

第十五　親王ノ子ハ諸王及王女トス

第十六　皇族ノ継嗣ハ實子孫実弟ニ限ルヘシ

第十七　親王諸王ノ二男以下丁年以上ニ至レハ特旨ヲ以テ華族ニ列スルコトアルヘシ

第十八　皇族ノ嫁娶ハ皇族及ヒ華族ニ限ルヘシ

第十九　皇族ノ嫁娶ハ天皇ノ親裁ニヨルヘシ

附錄

第一　有栖川宮小松宮伏見宮ハ現今宣下親王ノ継嗣ヨリ諸王トナス

第二　山階宮久通宮北白川宮及載仁親王ハ現今宣下親王ノ継嗣ヨリ諸王トナシ其諸王ノ継嗣ヨリ華族ニ列シ侯爵ヲ授クヘシ

第三　梨本宮華頂宮ハ現今諸王ノ継嗣ヨリ華族ニ列シ侯爵ヲ授クヘシ

頃日原案ヲ以テ御評議ヲ遂テレ候上猶本日御評議ニ及ハレ候ニ付テハ愚案大間遠之ナキ為書取ヲ以テ御答ニ及ヒ候尤原按之通ニテ異存ト云義ニハ之アル間敷候得共聊文言ニ付テ疑貳ヲ生シ易キ平ト存候ニ付補添ト申ス義ニハ御坐ナク候得共因依修飾左ニ之ヲ録シ畢又猶大臣閣下ノ決裁ヲ請フ

帝室典則

皇位継承

第一　皇位ヲ承ル者ハ常ニ皇太子トス

第二　凡皇太子ヲ立ル嫡長子之ニ當ル嫡長子ナクシテ而更ニ嫡長孫アルトキハ嫡長孫之ニ當ル嫡長孫ナクシテ而嫡次孫アルトキハ嫡長次孫之ニ當ル若嫡長孫嫡次孫倶ニナクシテ而更ニ庶子アルトキ若嫡次

子アルトキハ其撰ニ當ルヲ得ス若嫡次子ナキヲ更ニ嫡次子ノ嫡子アルトキハ又其撰ニ當ルヲ得ス嫡子ノ行ト嫡孫ノ行トヲ数ヘ盡シテ而皆ナキトキハ皇太子ノ庶子之ニ當ル皇太子ノ庶子ナケレハ皇庶子ノ行之ニ當ル

第三　皇子皇孫ノ行俱ニナクシテ而後皇兄弟ノ行ニ及フ

第四　皇兄弟ノ行ナクシテ而皇兄弟ノ子孫ニ及フ

第五　皇兄弟及ヒ其子孫ノ行俱ニナクシテ而後先帝ノ行ニ及フ

第六　遺腹ノ皇子若クハ皇孫ト雖固ヨリ皇位ヲ継承スル者トス

凡継承ノ義ハ嫡ヲ先ニシテ庶ヲ後ニシ近ヲ先ニシテ遠ヲ後ニシ長ヲ先ニシテ幼ヲ後ニス禮ナリ

第七　庶出ト雖嫡后ヲ以テ亦母ト称ス

丁年及立后

第八　天皇丁年ハ満十八年トス

第九　立后ハ天皇丁年已後トス

第十　凡皇后ハ皇族或ハ公爵或ハ侯爵ヨリ之ヲ擇フ者トス為

摂政

第十一　天皇未丁年又ハ甚違豫ノ事アリテ政務ヲ親ニセサル時ノミ摂政ヲ置ク

第十二　摂政ハ皇族ノ最親シキ者之ヲ為ス尤丁年上タルヘシ

皇族

第十三　皇胤ニシテ未タ臣籍ニ列セサル者ヲ総テ皇族トス

第十四　皇子ハ親王ト称シ皇女ハ内親王ト称ス

第十五　親王ノ子ハ諸王トシ親王ノ女ハ女王トス

第十六　皇族ノ家アリテ継承スル者ハ其實子孫アル時ニ限ルヘシ

第十七　凡親王諸王ノ妃ハ親王妃諸王妃ト称シ禮皆夫ニ等シ

第十八　皇族ハ五世親盡始テ姓ヲ賜テ臣下ニ列スト雖猶國家叅蟠斯ノ繁栄ヲ望ムトキハ則仍之ヲ皇族ノ内ニ置ク

第十九　皇族ノ嫁娶ハ皇族及ヒ華族ニ於テス

第二十　皇族ノ嫁娶ハ天皇親裁ヲ待テ而後之ヲ為ス

尚以附録ノ條ハ事理本文通リ已ムヲ得サルカ如シト雖當今國家継嗣未タ廣カラス故ニ愚考案中第十八ノ款條ヲ照合セ

御深慮之アリ度凡廟堂秘密ノ議ニ於テ成丈皇子皇族王族錄百モ之アランコトヲ希望致サレン事是国家ニ対シテノ忠義大節而乱臣賊子モ豫メ覬覦ノ念ヲ塞クトキハ則良民モ亦之カ為ニ誤ラレス天下自然ニ幸ヲ受ルトス左ナクシテ而徒ニ立太子ノ憲法ヲ設ルト雖王室ハ之カ為ニ幾分ノ利益アラン乎徒法徒行直ニ文飾ニ過キサルノミ若シ此條ニ御氣ヲ留メラレシ上ハ特旨ヲ以テ華族ニ列スルノ條ハ旧例ナリト雖御廃止然ルヘク存候假令貪冬ノ暮シ方致サレ候共王族ヲ貶シテ臣下ニ列スルノ辱ニ俞テスヤ元此例ハ嵯峨天皇ノ頃ヨリ始マル王室既ニ弱クシテ而忠仁昭宣ノ暴威権柄始テ成ル是実ニ禍例ニシテ福例ニ非ルナリ今日ノ注意之ヲ重シトス今日ノ擬議之ヲ不易トス副島種臣謹識

附錄ニ付元案外ノ事ナカラ又更ニ一條ヲ言上仕候ハ各宮方ノ甚多クシテ用度ノ廉ニ苦ム者各王子方ニ各宮號ヲ與ヘ次男三男庶子庶流トテモ各自美麗ナル各宮殿ヲ營繕スルニ因ル何ソ若シヤ今後各其本宗ニ依テ永ク同居同宗ノ義ヲ保シニハ皇族已ニ多クシテ而後親盡ノ方々ヲ且疏遠ノ最ナル者ヨリ之ヲ臣下ニ列セラレテ而可ナリ自今爾後一家ノ称号ヲ立テラレタ新ニ宮號ヲ賜ハル可キ者ハ唯親皇子ニ限ルトス最佳ナリ如斯セハ内度支ノ費少ナクシテ外之蠹斯ノ繁アリ賢ナル者ハ自ラ賢トシテ奮発従事王室ノ干城トナリ天下ノ安寧ニ功労アリテ更ニ大勲位ヲモ帯フルノ日別段思召ヲ以テ一箇ノ宮殿ヲ假渡サレ宮號アラルヽモ是未タ全ク不可ナラス是未タ全ク不可ナラス鄙見瑣屑要スルニ亦國家ノ重大事而閣下ノ擇ノ所ニ在リ副島種臣又議

帝室典則備考

継承権剥奪

継承順序辞謝

西班牙憲法　五十三條

政ヲ親ラスルノ任ニ適セサル者若クハ王位継承ノ権ヲ失フヘキ状アル者ハ法律ニ依リ其権ヲ剥カルヘシ

法律トハ両議院議定シ君主批准発行ノ者タル勿論ナリ

魯西亜法律全書　十五條

實祚継承順序ニ就テ以上ニ制定セシ規律ヲ施行スル時継位ノ権利ヲ有スル者宝祚將来ノ継續ニ如何ナル障碍ヲモ生セサル場合ニ於テハ此ノ権利ヲ辞謝スルノ自由ヲ與ヘラル

和蘭憲法　廿三條

継嗣順序変易

特殊ノ時機ニ遇ヒ王位継承ノ順序ヲ変易スルコトヲ必須トスル時國王ハ其法案ヲ國會ニ示スコトヲ得國王ハ建國法ノ修正ニ管スル第百九十六七九條ノ三條ニ定メタル方法ニ準シ該法案ヲ論議スヘシ

百九十六七九條ハ特ニ會議ヲ丁重ニスル方法ヲ以テスル也國會ハ両院ヲ指ス

継嗣者断絶

同

廿四條

憲法ニ從ヒ入嗣スル者ナキ時ハ前條ノ例規ヲ施行スヘシ國王阻シテ未タ世嗣ヲ命セス又ハ其在ラサル時ハ平例ノ員数ヲ陪シテ召集シタル國會ノ両院合議シテ世嗣ヲ冊立ス

両院合議トハ一院一所ニ會スルヲ云フ

同上

空位

継嗣者断絶新朝推立

白耳義憲法　六十一條

レオポル、シヨルジー、キレチアン、フレテリク、ドサクスコブールグ陛下ノ男子無キ時ハ陛下ヨリ両院ノ承認ヲ得テ其世嗣ヲ冊立スルコトヲ得両院ノ羨認ハ次條ニ掲ケタル方式ニ依テ議決シタル者也三分ノ二以上多数決ヲ指ス

若シ上ノ式ニ從テ為シタル冊立ナキ時ハ空位タルヘシ

同　八十五條

空位ノ時ニ當テハ両院合議シテ全ク新徴シタル両院ノ會合ニ至ル迄假ニ摂政ヲ定ム○新徴ノ議員ハ両院合議シテ定メテ空位ノ處分ヲナス

瑞典憲法　九十四條

若シ天運窮リテ國位ヲ継クヘキ本末ノ宗室ニ男裔ナク

継承法

王朝断絶ニ及フ片ハ内閣大臣ニ於テ國王殂落ノ後前條ノ日限内（君主殂落ニ議院ヲ召集スヘシ十五日内）ニ議員集會ノ上ニテ新朝ヲ推立シ而テ政體ハ現今ノ者ヲ存用スベシ

孝漏西憲法　五十三條

王位ハ王族法ニ循テ大宗ノ序ニ依リ次ニ最近支親入嗣ノ例ニ從ヒ男統世襲トス

同　五十四條

誓

國王ハ全周十八歳ヲ以テ成年トス○國王ハ両院合會ノ前ニ於テ普漏西國ノ憲法ヲ確守シテ侵サス而テ憲法并ニ其他ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フコトノ誓ヲ宣フ

同　五十六條

摂政

國王未成年ニ屬シ若クハ曠時故障アリテ政ヲ親ラスル能ハサレバ最近ナル支親ノ成年ナル者摂政ヲ行フ此

摂政無其人

時ハ其人必ス急速両院ヲ徴集シ両院ヲ合會シテ摂政ヲ設クルノ必要ナルコトヲ宣言セシムヘシ

同　五十七條

若シ成年ノ支親アル能ハサルヲ及法章ヲ以テ豫定シタル者ナキ時ハ國相（八省執政ヲ合称ス）必ス両院ヲ徴集シ両院合會シテ一ノ摂政ヲ撰ハシムヘシ摂政職ニ即クニ至ル迄ハ國相大政ニ任ス

同　百七條

憲法ハ議院ノ通法ニ循ヒ修正スルコトヲ得

王位継承法ハ憲法中ノ要目ナリ故ニ之ヲ變換セントスル時必ス議院ニ謀ル能ハサルヲ當然ナリ摂政ノ事亦同シ

國會有関王室權

王族譜籍

西班牙憲法　三十九條

國會ハ國王ト共ニ受用スル立法權ノ外左ニ掲クル職掌ヲ有ス

第一　國王太子王國摂政官一員ニ限ラス若クハ摂政一員ニ限ル

ヲシテ国憲及ヒ法律ヲ遵守スルノ誓詞ヲ宣ヘシムル事

第二　國憲ニ掲ケタル時機ニ於テ王國ノ摂政若クハ摂政官ヲ選擧シ及ヒ未成年ナル國王ノ太傅ヲ命スル事

伊太利憲法　三十八条

王族ノ身上證書婚姻出産死去証書ハ元老院ニ送リ元老院ハ其證書ヲ書房中ニ藏スヘシ

同

摂政参議

佛蘭西元老院決定書千八百五十二年十二月　第八條

皇族ノ身上證書ハ首相之ヲ受取リ皇帝ノ命ヲ以テ元老院ニ送リ元老院ニ於テ之ヲ簿冊ニ登記シ且其書房中ニ藏スヘシ

本邦古制宮内省置正親司掌皇親名籍

佛蘭西元老院決定書千八百五十六年十八條

摂政ノ参議ハ皇帝ノ幼年ナル時間之ヲ任スヘシ其参議ノ員ハ左ノ者ヨリ之ヲ集成ス

第一　皇帝ノ撰任シタル佛國皇族

皇帝ノ特ニ撰任シタル者ナキ時ハ帝位ヲ嗣クヘキ順序ノ最近ナル皇族二員

摂政参議

第二　皇帝ヨリ公ケノ書及秘密ノ書ヲ以テ任シタル者

若シ皇帝此参議ヲ撰任セサル時ハ元老院ハ参議ノ一部ヲ為スヘキ為メ特ニ五名ヲ撰任ス

佛國皇族ヲ除ノ外摂政参議ノ一員又ハ数員ノ死去シ又ハ退任シタル時ハ元老院其者ニ代ヘ更ニ他人ヲ選任スヘシ

同　十九條

摂政参議ハ摂政皇后又ハ摂政ヨリ之ヲ退職セシムヘシ

二十五條

國家ノ摂政ノ為メ必ス摂政参議ヲ設ク實ニ参議ナキノ摂政及ヒ摂政ナキノ参議アルヘカラス

同　二十六條

参議ハ摂政ノ選擧ニ由リテ一二等官ノ六名ヨリ成立ス但臨時ノ変更ニ當リテハ又他員ヲ命スル者トス

同　二十七條

皇族ノ男子摂政ノ選擧ニ由リテ此参議ニ列スルコトヲ得但其成年前ニ於テセス又議院ヲ成立スル六名中ニ入ラス